

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600704		
法人名	社会福祉法人 長崎友愛会		
事業所名	ゆうあいホーム今里		
所在地	長崎県南松浦郡新上五島町今里251-32		
自己評価作成日	令和3年3月15日	評価結果市町村受理日	令和3年5月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和3年4月5日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・事業所の理念である「真愛」「もっと笑顔で、自分らしくを大切に」をモットーに立地条件を活かした地域密着を目指しております。利用者様が共同生活をするに当たり、職員がそれを援助するという、グループホーム本来の姿を実現するように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和2年度はコロナ禍の為、地域の方や知人の方との面会や交流は自粛しているが、車中から墓参りを行ったり、家族からのDVD動画を視聴したり、年賀状を職員が代読するなど、これまでの馴染みの関係が途切れないよう支援している。また、入居者が例年参加していた近隣小学校での卒業式や入学式など各種行事等への参加のほかホームでの納涼祭など地域との交流も自粛したが、今後、ワクチン接種後には各種行事を再開する意向である。フロア会議及び全体会議を定期的に開催し、職員意見の把握と、運営に反映させるしくみを整え、法人理事長も定期的に訪問してホームの状況を把握し職場環境の改善に繋げている。人材不足傾向であった為、同法人の関連事業所から職員を応援してもらうなど連携し、令和2年度は3名が入職した。職員は理念である「もっと優しく、もっと温かく…」を日頃から意識し日々の実践に努めているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 A

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	今年度は「コロナ禍」の為、地域や小学校との行事にも参加出来なかったが、例年は地域との交流を心掛け、地域に根差した事業所を目指しております。	法人理念である「もっと優しく、もっと温かく…」をホーム内に掲示すると共にホーム独自の理念「真愛」と「もっと笑顔で、もっと自分らしくを大切に」を掲げ、日々の支援の中で実践に努めている。管理者は、今後、職員と話し合いを重ねホーム理念をより分かりやすく改定する意向である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春の『父母の日の集い』夏の『納涼祭』秋の『敬老会』には地域の方や老人会の方にも参加して頂き交流を深めている。	コロナ禍により令和2年度は入居者が例年参加していた近隣小学校での卒業式や入学式など各種行事等への参加のほかホームでの納涼祭など地域との交流を自粛した。尚、地域清掃や年3回の草刈りには職員が参加し地域貢献に努めている。ワクチン接種後には「敬老会」を実施する意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつ地域の方々との関係ができ、今後は施設見学をして頂く話をしている。施設についての質問などある時は、対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は「コロナ禍」の為会議を文書でのやり取りとした。今後もメンバーの意見を取り入れていきたい。	コロナ禍により令和2年度の運営推進会議は書面形式でホームでの行事等実施状況や活動の様子を知らせている。会議構成メンバーからは文書で意見を得ている。	今後、よりホームの運営の透明性を図るためにも、事故・ヒヤリハット、職員研修、防災・避難訓練、外出状況等、必要に応じて写真を活用するなどして取り組むことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	健康保険課の方が、運営推進会議に参加されているので情報をとりあえる。地域包括の方から問い合わせなどあるので協力出来る事には対応させていただいている。	日頃より行政担当者と密に連絡をとり、補助金に関するアドバイスやメールでのやり取りなど連携が取れる関係性を構築している。地域包括支援センターや社会福祉協議会の職員と相談や問い合わせを行うなど協力関係ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、会議の中で内部研修をしている。最近では、小さな事柄でもご本人にとって拘束にあたらぬのか？と、皆で検討するようになっている。	調査日現在、身体拘束が必要な入居者はいない。定期的に身体拘束・虐待防止に関する研修会を実施すると共に、月1回のミーティングでも身体拘束について話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人で、虐待の委員会があり会議の中でも気になることは話合うようにしている。よいケアが提供できるよう心掛けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年、1名の方が活用された。一部の管理者だけが携わった為、職員への周知には至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	介護支援専門員、管理者が担当し、納得して頂ける様、心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に、話す時間がもてるようにしている。ご家族によっては話しやすい職員に意見を言われることもあり、情報を共有し対応するようにしています。ご意見箱を設置していますがそこに要望等入っていることはないです。	コロナ禍によりホームでの家族との面会は中止している。可能な方は定期的な病院受診の際に家族にも知らせて面会できるよう配慮している。職員は家族から意見の申出がしやすいよう環境づくりを大切にして信頼関係の構築に努めている。	コロナ禍により家族と面会できない状況もあり、家族へ情報が伝わっていない現状が窺える。今後、例えば入居者の様子の写真等を掲載したホーム便りの発行やオンライン面会を工夫するなど今後の取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議に参加するので、提案、意見を言える環境にある。組織の環境が整い、内容によって相談など話しやすい環境がある。	フロア会議及び全体会議を定期的に行い、職員意見の把握と、運営に反映させるしくみを整えている。法人理事長も定期的に訪問してホームの状況を把握し職場環境の改善に繋げている。人材不足傾向であった為、同法人の関連事業所から職員を応援してもらうなど連携し、令和2年度は3名が入職した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価、給料の見直しなどあり又、ホームでの取り組みの努力など理解し評価されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修は毎月行われており、外部研修の案内をホームに情報提供して頂いている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の繋がりがあり、地域から他の事業所、施設との繋がりは深い。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時は、ご本人、ご家族共に話す時間を取り電話での連絡をいつでも取れるようにし不安なくサービスの利用ができるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	今まで困ったことや、これからの不安を傾聴しご家族との関係づくりに努めている。ご本人はもちろん、ご家族の支援をすることも常々代表が言われている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状況と、ご家族の状況を判断しその時に必要なサービスを勧めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームの中では、出来る事の参加をさせていただいているのでご利用者の中には、ここに仕事に来ていると思われる人もいらっしゃいます。職員も、ご利用者に支えられていると思います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の状況によっては、外出、受診、外泊などの協力をいただいている。今年度は面会を中止状態です。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出支援時(ドライブ)は出来るだけ地元を通るように心掛けている。	コロナ禍の為、地域の方や知人の方との面会や交流は自粛しているが、車中から墓参りを行ったり、家族からのDVD動画を視聴したり、年賀状を職員が代読するなど、これまでの馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性、性格を把握した上でご利用者同士の支え合いができるようにしているため、自然と、関わりあいができている。時により、職員が間に入り円滑にいくよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	離島という地域の特性もあり、退所されてからも町であったりすると挨拶や会話をし、関係性を継続出来ている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の意思を伝えられる方の希望や意向は、日々の会話から把握し、情報を共有するようにしている。失語症の方が、把握出来にくい表情やジェスチャーで本人の訴えを少しでも理解するようにしている。	担当職員を中心に入居者へ声掛けする機会を多く持ち、その方の反応や表情、ジェスチャーを理解するよう努めている。帰宅願望がある方や繰り返し同じことをいう方にもその都度丁寧に対応している。ケアカンファレンス会議等を通じて入居者の情報を他の職員と共有し本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族や以前の担当の方からの聞き取りを行い把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ほとんど方に、目が届くので過ごし方、心身状態、有する力は、状況が変わってきたのも把握できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医、訪問看護の方々へ相談することもある。又、訪問看護は毎週こられるのでアドバイスを頂く機会も多い。プランに入れてなくても日々のケアの中に反映している事もある。	介護計画はおおむね長期目標を1年、短期目標を6か月で立案し、月1回のフロアミーティングを通じて担当者と意見交換し、計画に反映している。訪問看護と利用契約を交わしており、必要な助言を得て現状に即した介護計画を作成するよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づき、工夫している事があるが個別の記録が細かく書けていないので、以前からの進歩がない。申し送りノートは情報共有に活用できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、ご家族の状況に合わせられる事は、他からの協力を得ながら対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	職員、ご家族での支援を行っている。本が好きな方は購入したり、職員が買い物代行したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の特性で病院は上五島病院のみだが、皆様主治医が決まっており、適切な医療支援は行えている。	総合病院である上五島病院へ定期的を受診している。往診はないが訪問看護と契約し、週一回利用している。また、歯科医の往診もある。受診には職員が同行しているが、島外の医療機関の受診は家族対応としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の日に、聞きたいこと伝えたいことは職員間でその日出勤する職員に伝え、当日、伝えてもらっている。看護師さんも必要に応じ病院との連携をとっていただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	状況の判断を病院と連携しながら連携室の担当の方と連絡を取り合い、退院後の事まで検討し安心して入院治療が出来るようにしている。早期に退院できる時は、すぐに対応するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人、ご家族とは元気な時に話をするよう心掛けている。ホームで出来る事は説明しており、環境や医療の必要性に応じての移動の旨も伝えている。	医療機関、家族、ホームの三者で協定を結び、入居者が重度化した場合のホームの支援体制について説明している。これまで看取りの実績はなく、老衰や医療的措置が必要となった場合は、医療機関へ移行となっている。ホーム内にはAEDを備え、隣接する関連事業所の看護師とも連携している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は行えていないが、看護師のサポートも有り、内部研修をするなどして対応は出来る様にしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	今年度は「コロナ禍」の為、訓練は出来ていないが、コロナが収束すれば年2回確実行うようにする。	コロナ禍により消防訓練を実施できていない。尚、ホーム内はカーテン等防災製品を使用し、消火器やスプリンクラーを設置している。点検業者による点検も実施している。令和3年度は4月に消防訓練を予定している。	コロナ禍であるが、自主訓練を行うなど年に2回は災害訓練を実施することが望まれる。また、訓練を実施した際は参加人数、訓練後の反省点、総評、写真等、具体的に記録に残すと共に運営推進会議にも報告することが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理事長が、尊厳を大切に敬う気持ちで接する事を言われています。職員同志で気になる言動がある時は、注意するようにしています。汚染のある時は、部屋に誘導し対応し恥ずかしい思いをさせないなど気がけるようにしています。	入居者が人生の大先輩であることを前提とした関わりを持ち、方言で親しみを込めた言葉かけを行っている。排泄を失敗した場合でも周囲の方に気づかれないようさりげない声かけに努め羞恥心に配慮している。入浴時等同性介助を希望する方には希望に沿うよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分から話せる方もいますが、そうでない方には職員のほうから思いを聞き出すよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	外出に関しては、なかなか対応できないところがあるが、ホームの中では起床の時間や、食事、入浴など個人のペースが違う時は、本人本位に対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性で、髪につけるもや洋服など欲しいものがある方には、気に入るものを購入してもらったり、アクセサリーに興味がある方は家族とも協力しておしゃれをしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の生活から嗜好を気に掛け、出来るだけ好きな物を摂取して頂ける様に心掛けています。テーブル拭きのお手伝いをしてもらったり、下膳のお手伝いなど一緒に出来る方は積極的に行われている。	ホームの食事は手づくりのものを提供し、調理専門職員を中心に地域からの差し入れや季節に応じた旬の食材を利用し提供している。入居者の嗜好やアレルギー情報は職員間で共有し、配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べる量も、個人差があるので体重測定や血液検査等で十分なのか確認している。水分を摂る量が少ない方には声かけたり、好きな飲み物を出しできるだけとってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ準備を行い介助や声かけの必要な人には、職員がついて行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁のある方には、排泄の時間を見て昼、夜、声をかけたり尿取りの確認をするようにしている。	排泄チェック表を用いてその方に応じて定期的にトイレ誘導を行っている。バルーンカテーテル使用の方など入居者それぞれの状況に応じておむつや尿取りパッド、ポータブルトイレの使用等適宜準備している。水分摂取や処方薬での調整等、個別での支援を行っている。受診時にはおむつを持参する等配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を摂る事、適度に体を動かす事、食事は野菜を多く使うなど心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴は行いペースはある程度決めているが、その方に合わせたお湯加減や時間のとり方をしている。	入浴日は火曜日以外は毎日午後より入浴ができるよう取り組んでいる。重度の方など入居者の状態に応じて職員2名で介助している。職員は入居者の希望や状態に応じて入浴する順番を変更したり、シャワー浴や清拭を行うほか、希望者には同性介助にも対応している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない程度で、休みたい時は部屋に戻り休んでいただいている。空調も気持ちよく休んで頂けるよう管理している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース記録に、薬の説明書を綴じていつでも見れるようにしており、頓服で出されるお薬は申し送りや薬箱に貼り把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行動を職員の都合で決める事をせず、ご本人に任せる様にしている。但し、体操やレクリエーションの際は全ご入所者に声かけを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	あまり行えていないのが現状だが、天候なども相談し、事業所周りの散歩やドライブに行くように心掛けた。	コロナ禍により外出する機会は減少しているが、車中より花見に行ったり、近隣へ散歩に行くなど取り組んでいる。職員が入居者へ購入希望を聞いて代わりに購入している。理美容は美容師資格を持つ職員が無料で行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所の方で管理しているのが現状だが、ご本人が望まれるものや必要な物は職員が代行で購入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればその都度、対応している。名前だけでもでもご自分で書いていただき送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの壁や居室の壁に季節感のあるもの飾ったり、幸い立地条件も良く、日当たりも良好で生活環境は良い。	リビングでの席の配置は入居者同士の相性等を考慮し対応している。共用空間は適宜換気を行い、エアコンは新たに取替え、手すり等はアルコールで拭き取るなど感染症対策を講じている。共用空間にある加湿器はリコール製品でないものを使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの中のテーブルに座る際の組み合わせは相性を考え配置している。一人になりたい時は、居室に戻りくつろいで過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族との話で、必要なものを最低限もってこられている。その方にあった環境作りに努めている。	居室には家族写真の持ち込みなど特に制限することなく、使い慣れた物等の持ち込みができ、居心地良く過ごせるよう配慮している。入居者の信仰心にも配慮し、コロナ禍以前は神父が訪問するなど配慮していた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋の見えやすい位置に時計を置き時間の把握をしていただくようにしている方もいます。		

自己評価および外部評価結果

ユニット名 B

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業者単独の理念を掲げ、地域との交流、密着を地域特性を活かして勧めていっております。地域の方には認識されていると思います。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当事業所の行事には地域の方に参加して頂いている。また、地域の行事には、利用者様、職員共に地域の一員として参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町会議員、郷長、民生委員様に参加して頂き意見交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の結果を、ホーム会議の場で職員と情報を共有しサービス向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の場に、役場健康保険課、地域包括センターの方に参加して頂き、情報交換、意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない事を基本としているが、利用者様の安全確保の為やむを得ない場合はその都度、家族への了解を頂いている。ホームに身体拘束マニュアルを置いて、職員が閲覧できるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で虐待防止委員会を設置しており、参加した職員がホーム会議の場で持ち帰り、勉強会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の研修に参加し、権利擁護に関する知識を深めるのはもちろんのこと、勉強会などを通じてホーム内にて情報の共有を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	当事業所のパンフレットを作成し、入居前には実際ホームを見学して頂き、納得されたうえで入居して頂くよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が面会に来られた際は、利用者様の状態、近況報告を管理者だけでなく職員誰でも出来るよう取り組んでいる。また、家族様からのご意見、ご要望はホーム会議にて共有し問題の改善に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の代表者会議の場にて意見交換を行っている。また、代表者会議以外でも必要であれば管理者を通して本部へ相談している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課表を各職員で記載し、管理者と個人面談を行っている。その中で今後の明確な目標づくりやモチベーションアップに繋がるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員それぞれに担当を持たせ責任感を養えるよう取り組んでいる。また、中堅職員には後輩の育成の必要性を唱え日々指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協議会の研修など、多人数での研修、会議などに参加しコミュニケーションを取っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境の変化による利用者の不安を払拭するため、職員や他利用者との円滑なコミュニケーションを心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際には本人様だけでなく、ご家族様も不安を抱えていらっしゃるのでは家族様ともしっかりコミュニケーションをとり相談しやすい空間づくりを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様との何気ない会話やご家族様との会話から考えうる最適な支援を見極め、応えることが出来るよう心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者様は対等な立場であり、利用者様の自己決定を尊重し、その人らしい暮らしの確立を職員と共に築きあげている。また、利用者様への役割作りを大切に生活していく中での意欲向上を心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当事業所の行事の際にはご家族様へ参加をお願いし、利用者様と過ごす機会を作る手助けをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や利用者様から情報を収集し、馴染みの場所や思い出の場所へ可能な限りお連れしている。また、利用者様の中には、身内ではなく、昔なじみのご友人がいらっしゃる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション、外出支援等を通して、利用者同士の交流を深める機会を増やしている。交流が苦手な利用者に関しては、職員が間に入り個別でコミュニケーションをとるなど一人一人に合ったケアを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も可能であれば面会へ行くなど、何らかの関係を保つようしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でのコミュニケーション(会話、談笑、レクリエーション)の中で生活に対する要望の把握に努めている。コミュニケーションが苦手な利用者様には個別での関わりをもちなるべく情報を引き出せるよう心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される事前に初回面談を行ったり担当ケアマネージャーからの情報収集を行い、情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月、生活状況や心身状態等を要約して記録に残しカンファレンスの際に、近況報告を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様へはそれぞれ担当の職員がおり本人様や家族様からの要望や気づき等をホームでのカンファレンス会議でケアマネージャーを中心に話し合いケアプランの見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録をもとに毎月生活状況等を要約したものを情報共有し定期的に見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者の急な要望には応えられないこともあるが、前もって相談された時は極力対応するように心掛けている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事参加による地域の方との交流やレクリエーション、ボランティアの受け入れ、定期的な外出支援等を工夫して行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の特性上、主治医の選択は出来ないが、受診や手術に関しては、ご家族、病院、事業所間で、よく話し合い、対応できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人が契約する訪問看護事業所が1回/週、健康チェックを行い、職員へのアドバイス等を行える体制を確立している。また、特変がある場合には病院へ報告を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様が入院された際は、病院の看護師と連携を取り情報収集を行っている。また、家族様へもこまめな連絡を行い早期退院できるよう心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針を入居時に説明、また必要な状態の際に再度主治医を交えて対談を行い、方針を決めるようにしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内外の研修に積極的に参加し、個人のスキルアップを図っている。また、どの職員でも対応できるよう、職員への指導も日々行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	今年度は訓練出来ていないが会議の中で内部研修を行った。火災報知機から直接、消防署に電話出来ます。スプリンクラー完備。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を元にやさしく、あたたかい声かけを実践している。また、一人の時間を大切にされる利用者様が増えてきたので、無理なレクリエーションへの参加の声掛けを行わない等工夫している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との会話等で出た要望(買い物、外出等)に可能な限り応えるようにしている。また、外出支援の際はご自分で洋服を選んでいただくなど自己決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員優先でなく、利用者様のペースにあわせ支援していくよう日々職員には指導を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節の変わり目は衣替えを行い、季節感を感じて頂き、希望者には、衣類の購入や散髪にお連れするなど支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理専門の職員を配置することで、手作り料理を毎日提供できている。今年度は出来ないが、誕生日などに外食に、お連れしたりする。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	夏場の暑い時期は食事以外にもこまめな水分補給を行い、熱中症の予防などに努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、義歯の洗浄を定期的に行い、磨き残し等は職員が支援するようにしている。清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により利用者の排泄パターンを把握し定期的なトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により利用者様の排泄状態を把握し、必要であれば、主治医の指示の下、下剤等を利用し排泄コントロールを行っている。 また、水分補給の際に個々の利用者様に合った工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の状態や希望に合わせて、利用者様本人と相談しながら、入浴して頂けるように支援している。時には、手浴や足浴、清拭も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息が必要な方は居室にて休んで頂けるようにしている。その際には、居室の温度管理や寝具の調整など気配りを心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐため、当法人の服薬マニュアルの下服薬支援を行うとともに、ホーム独自でも服薬チェック表を作成し確認を行っている。他ホームで起きた誤薬、アクシデントなどはホーム会議で職員に伝達し、服薬チェックの大事さを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のレクリエーションや集団行動が苦手な方には個別レクを行う等の工夫をしている。季節にもよるが近くの散歩や外出支援も行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り利用者様の要望に沿った外出等を支援している。また、人員不足の際には叶えられない事もある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業者で管理しているのが現状です。但し、必要な物やご本人が望まれるものは、購入して頂いてる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある場合には、常識的な回数、時間にて利用して頂くように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロア内では四季を感じて頂けるよう季節に合わせた飾りつけを行っている。厨房がフロア内にあるため、料理の匂いや調理風景などを見て、家庭的な空間づくりを目指している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で食事出来るよう席順を考慮したり、フロアにソファを設置し、利用者同士の語らいの場を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の写真やホームで生活するうちに撮った写真などを配置したり、ご本人やご家族が望まれるものは、持ち込み可能としている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	良く使われるトイレや洗面所には目印をつけ、利用者様が混乱しない様配慮している。		